

テーマ：～大学院と図書館～

図書館と情報センター雑感

図書館長 関谷伸一

最近というよりかなり以前から、大学附属図書館や公共図書館のいくつかは、「情報センター」「情報館」あるいは「メディアセンター」というように、従来の「・・・図書館」という看板を掛け替え始めてきているようである。本学図書館が加盟している公立大学協会図書館協議会という全国組織の会があるが、その協議会のホームページを調べた結果、平成17年度の全加盟館73館のうち「情報センター」等の名称を掲げているところは20館に達していた。ちなみに新潟県内の公共図書館では、お隣の町である十日町市に「十日町情報館」がある。いずれもパソコンとインターネットをキーワードに、情報の検索と入手、そして情報の発信がうたい文句である。しかしこのような「情報センター」でなくとも、現在の多くの図書館は多数のコンピュータを備え、キーボードをたたき音と、液晶画面に見入る利用者であふれている。

学生時代に経験した図書館は、館を取り巻く木々からの木漏れ日が差し込む薄暗い閲覧室を持ち、ページをめくる音にも遠慮するような静寂が支配し、なんとも表現しようのない、枯れたような書物のおいが立ち込めていたような気がする。今思うと、現実から逃避するにはもってこいの場所だった。ぎっしりと詰まった狭くて高い書棚をみると、自分のものでもないのになんとなくリッチな気分になり、著名な本を見つけたり、偶

然おもしろそうな本に出会ったりすると、得したような気分になったものだ。このように書くと懐古趣味的でいただけないが、それでもこのようないい気分を学生の皆さんにも味わってもらいたいと思う。そして現在の図書館にもぜひこのような環境を、と夢想してしまう。

にもかかわらず、すでに冒頭で述べたように私自身インターネットで各公立大学図書館の名称を検索し、コンピュータを使ってこの文を書いている。しかも図書館に出向くことなく己の研究室で。研究における文献検索や複写の入手についてもまったく同じことがいえ、とにかく便利な世の中になったと実感している。このように的確で正確な情報をいち早く入手できる機能性は、現在ではもはや「館」という場を必要としなくなってしまったようだ。だからといって図書館が不要になったわけではなく、このような機能を果たす新しい何かが望まれるようになったということであろう。それが図書館と合体して情報センターという名称で代表されるようになったものと思われる。しかし、熟読し、瞑想し、沈思できるゆったりした環境は、やはり「館」ではないかと思う。さらに閲覧図書や液晶画面をグループで囲んで議論できる場も必要かと思われる。贅沢かもしれないが、このような二面性を備えた図書館、いや情報センターを理想と考えている。

Contents・・・(ページ)

「図書館と情報センター雑感」	・・・1	図書館利用統計	・・・4
書評、新図書委員紹介	・・・2	寄贈者名簿	・・・5
エッセイ	・・・3	データベース紹介、お知らせ	・・・6

『Core Curriculum for Oncology Nursing. 4th ed.』

Edited by Joanne K. Itano, Karen N. Taoka

WB Saunders 2005

教授 柿川 房子

米国のがん看護協会から 1987 年に最初に出版されたものである。その後 1992 年、1998 年、そして 2005 年末の第 4 版である。改訂版が出るごとに、がん看護の発展に伴って内容の変革もなされてきたということである。したがってこの本は、がん看護の最新の専門看護教育としての基盤になる必要な要素が明確に述べられている。

内容は、第 1 部“生活の質 QOL”では、安楽、コーピング（精神的社会的、身体的、生きがい等の課題）、性、支持的ケア、第 2 部“防衛機能”では、活動の変調、皮膚損傷保全、神経学的状況、精神状態の変調そして脊髄圧迫、第 3 部“消化器、尿（排泄）機能のバランス”では、栄養の変化と、切除に伴う変化、第 4 部“心肺機能”では、換気障害、循環不全、第 5 部“腫瘍による変化”では、代謝の変化、構造上の変化、第 6 部“科学的根拠による実践”では、癌と発癌の生物学、免疫学、遺伝学、各種がん患者の看護（乳がん、肺がん、胃腸—消化管系統、生殖器官、泌尿器系がん、皮膚がん、頭頸部がん、神経系統のがん、白血病のリンフォーマまたは多発性骨髄腫、骨と軟部組織がん、HIV に関連するがん）について、そして外科手術、放射線治療と看護実践、生物学的療法と、分子療法と看護実践、抗腫瘍性治療と看護、準備、

管理の原則と危険な薬剤の処方、造血幹細胞移植の看護実践、代替医学、第 7 部では、ヘルスプロシジョン（疫学とがんの予防、がんの早期診断）、第 8 部では、専門職者としての役割（腫瘍の範囲と規格における応用、根拠に基づくエビデンスベースの実践、教育過程、法的課題、倫理的課題、経済的、保健医療制度改革、専門的課題、発展、総合的な協働、質の改善、クライアント擁護）について述べられている。

各項共にそれぞれ、例えば子宮がんでは、理論—アセスメント—看護診断—期待される成果—計画と実践—評価の流れで一貫して述べられている。最新のがん看護の実践に必要なケアがさらに充実して述べられているので日本の筆者らによる「がん看護マニュアル」と比較確認して、重要な文献として活用している。

文章が解りやすく短く区切って書かれているので、がん看護 CNS コースの大学院生が英文の原書をそのまま読むのにも比較的入りやすいのではないかと考えている。

ワシントン大学、Frances Marcus Lewis 教授にがん専門看護教育のために是非にと推薦された 1 冊でもある。

○近日中に配架予定

図書館委員紹介

～ 図書館委員（5名）の中から、平成 18 年度からの新しい委員の自己紹介 ～

「たくさんの書物に触れ、文章に目を留め、文意や情感を感じ取ってください。

学生さんのその姿勢をバックアップしたいと思います。」教授 栗生田友子

「今年から図書館だよりを担当します井上です。今回は、“院生特集”にしました。

私自身、今までの人生の中で、一番図書館を利用したのは、院生時代でした。単に閲覧や書物を借りるだけでなく、英語論文の取り寄せや他大学の図書館への紹介状など、さまざまに図書館を利用してきました。学びは、まず自分で調べることから始まるような気がします。図書館に足を運び知識を深めてください。」助教授 井上みゆき

図書館と私

大学院看護学研究科 長沼亜季子

図書館で勉強できるなんて。本当に何年振りでしょう。

去年の今ころは、こんな素晴らしいチャンスが自分に与えられるなんて思ってもいませんでした。

それが今、毎日この素晴らしい環境で勉強できるのです。たくさんの蔵書、専門書、素晴らしいシステム、そして集中できる環境。

私は、小さなころから図書館は大好きでした。

人間には歴史があり、世界にはいくつもの国があり、さまざまな人種が居て、幸せも不幸もあり希望もあるというようなことを、本を読んで学んだ気がします。

私にとって何かについて調べるのではなく、自分が知らない、未知のことがこんなにもたくさんあるということが冒険のようなものでした。

働き始めてからは、図書館に行く時間などほとんどありませんでした。また気軽に行ける距離のところにこのように設備の整った図書館もありませんでした。

しかし今は、大学院に入学して職場での疑問、自分の少ない経験の中では言葉にできないこと、

専門的なことでも自分が知らなかったことなどが、たくさんあることが改めてわかりました。図書館に行くたびに疑問が解決し、また新しい疑問が出てきます。

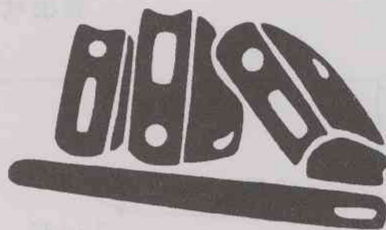
その意味で図書館に行くことは、今の私にとってはわくわくする冒険のようなものです。

図書館というものは、そこに行く年齢、経験、状況などからいろんな活用方法が無数にあるところだと思っています。

本は、自分が経験できないこと、知らないことを教えてくれます。

しかし理解する人間の能力や意欲で理解度はまるで違ったものになってしまうのでしょうか。

私は、この与えられた短い期間を十分に活用したいと努力したいと思っています。



私(院生)と図書館

大学院看護学研究科 佐々木沙織

私は今年から新潟県立看護大学の院生となり、大学の図書館を利用するようになった。私の主な利用目的は、新聞を読んだり、授業の課題について下調べをしたりすることにある。また図書館では定期購入している看護系雑誌が豊富であるため、より専門的な知識や最新の情報を得たい時にも、図書館を利用している。看護職とは地域、臨床・施設、学校・職場と活動の幅が広く、それぞれの専門的知識が求められていると考えている。そこで社会状況の変化を結び付けつつ看護を見つめるためには、各専門雑誌に普段から触れる必要性を感じる。よって課題の下調べだけでなく、雑誌を手にする機会を多くもうけるように心掛けた。

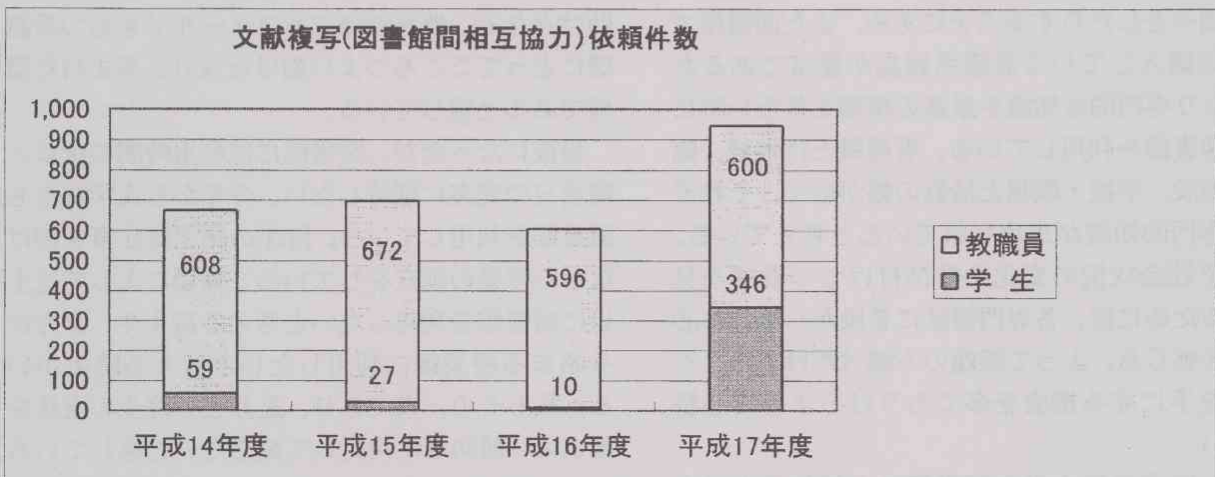
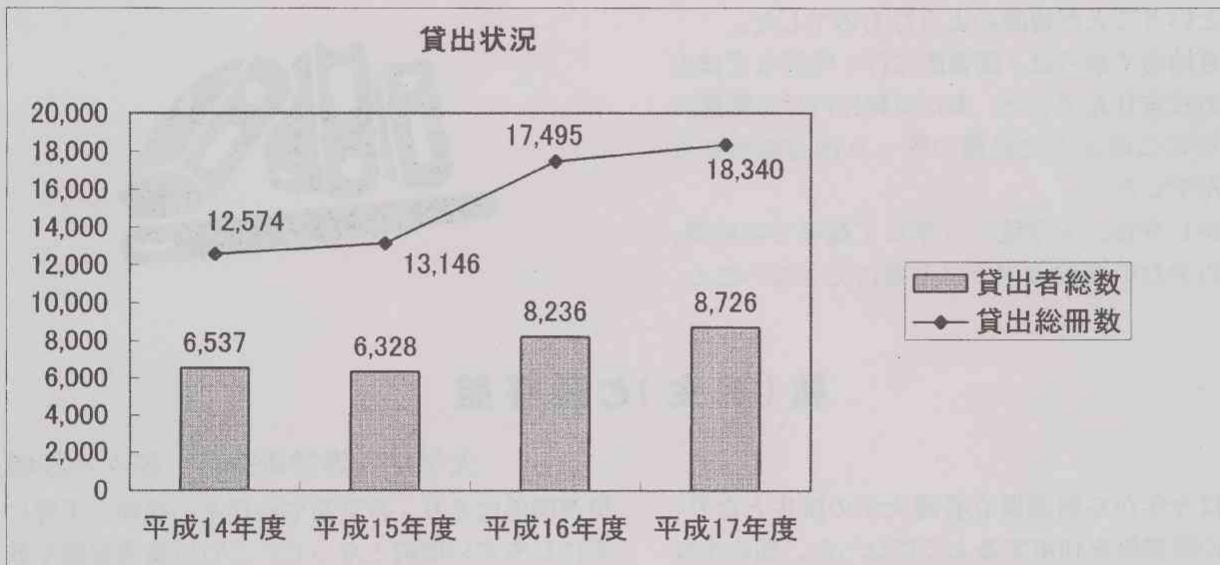
また県立看護大学の図書館は上越教育大学と

提携関係にあり、教育系や心理系の書物が手軽に手にしやすい環境となった。これは養護教諭や教育関係、心理系に関連した知識を得るのに大きな助けとなる。教育現場でもフィールドをもつ看護職にとってこころづよい助けとなり、恵まれた環境であると感じている。

最後になったが、図書館には利用時間の延長と開放日の充実に期待したい。今年から大学院生も図書館を利用している。院生の殆どは仕事を続けながら学業の両立をしている。職場によっては土日に図書館を利用したいと考える院生や、夕方から始まる授業後に利用したいと考える院生がいる。私もその一人であり、是非とも院生の現状を踏まえ、前向きに検討して戴きたいと感じている。

図書館利用統計

大学開学から完成年度までの利用推移



寄贈者名簿 <2006/1/13~2006/5/11受入分> (五十音順 敬称略)

下記のみなさまよりご寄贈いただきました。大変ありがとうございました。

<あ行>

阿部正子元助手
オーエムエムジー
大阪市立大学都市問題研究会
岡村典子助手
小千谷市企画財政課

<か行>

柿川房子教授
加固正子教授
柏崎市市民生活部防災・原子力安全対策課
川口町総務課
北里大学
キリンビール
結核予防会結核研究所
県立新潟女子短期大学
国際医療福祉大学
国土交通省北陸地方整備局
国立国語研究所
国立国会図書館
こども未来財団

<さ行>

埼玉県立大学
酒井由美子(著者)
佐々木美佐子元教授
滋賀県立大学人間看護学部地域交流看護実践研究センター
上越市介護保険課事業計画係
上越市企画政策課
上越市健康福祉部福祉課
上越市農林水産部
昭和大学
須磨幸蔵(著者)
聖隷クリストファー大学
全国保健師会新潟県支部
騒人社
総務省統計局

<た行>

大学基準協会
大学入試センター
高崎経済大学
高塚麻由元助手
中国帰国者支援・交流センター
長寿社会開発センター
十日町市役所震災復興室
東北大学
富川孝子元教授

<な行>

長岡老いを考える会
長岡技術科学大学中越地震雪氷災害調査検討委員会
長岡市復興推進室
長崎大学医学部
中島紀恵子学長
名古屋大学医学部保健学科
新潟県看護協会
新潟県教育庁保健体育課
新潟県産業労働部
新潟県産業労働部労働雇用課
新潟県消費者協会
新潟県総合政策部統計課
新潟県総合政策部健康づくりセンター
新潟県総合政策部国際交流課
新潟県総合政策部国体局県民スポーツ課
新潟県総合政策部震災復興支援課復興計画事務局
新潟県地域総合研究所
新潟県中学校長会
新潟県病院局
新潟県福祉保健部医薬国保課
新潟県福祉保健部福祉保健課
新潟県立図書館
新潟県立万代島美術館
新潟県老人クラブ連合会
新潟大学理学部地質科学科
日本看護協会
日本災害救援ボランティアネットワーク
日本障害者リハビリテーション協会
日本醤油協会
日本生命財団
日本図書館協会
日本難病看護学会
日本ユネスコ協会連盟
野地有子教授

<は行>

被爆60周年記念事業実行委員会
(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)
深澤佳代子教授
藤田保健衛生大学衛生学部
文化庁文化部国語課
北陸建設弘済会

<ま行>

松田慎也(非常勤講師)
南 裕子(著者)
文部科学省生涯学習政策局政策課
文部科学省高等教育局医学教育課

<や・わ・行・英数>

横浜市水道局総務課
吉山直樹教授
読売新聞
渡辺弘之講師
Medic Media

<新規受入寄贈紀要・雑誌>


<紀要>

愛知きわみ看護短期大学紀要
上武大学看護学部紀要
富山医科薬科大学医学会誌
新潟県立万代島美術館研究紀要

<洋雑誌>

Journal of Hospital Medicine/Wiley

データベース紹介


ヨミダス文書館
 Database

図書館ホームページのトップページもしくはリンク集から利用できます（学内専用）。

1986年9月以降の読売新聞記事を検索・閲覧（テキスト表示）できます。新潟県版記事（地域版）は1999年9月以降を収録しています。英字新聞「DAILY YOMIURI」も収録しています。

ログアウト 検索が終了したら必ずこのボタンを押して下さい 上手な使い方?

読売新聞記事 人物 The Daily Yomiuri for English

▶ [詳細検索画面へ]

検索語

AND OR NOT () 検索条件を リセット

検索方式
 全文検索 (入力した検索語を持つ記事を検索します)
 キーワード検索 (検索漏れが少なく不必要な記事を拾いません)

検索期間
 範囲 ▼ 年 月 日 ~ 年 月 日
 年 ▼ 以内 (半角で入力して下さい)
 特殊指定 毎年(月) ▼ 月 ▼

1ページに 20 ▼ 件表示

また、「人物データベース」（タブの「人物」をクリック）では、新聞紙上などに登場する現代のキーパーソン 22,000 人を収録、国会議員、自治体首長、文化、スポーツまで 18 分野から精選、随時更新しており、「所属団体・役職」「連絡先」「経歴」「業績」のほか、人によっては「趣味・特技」「座右の銘」まで知ることができます。

情報源は、図書・雑誌ばかりではありません。新聞記事・ヨミダス文書館もどうぞご利用ください。

展示ケースの利用方法について

先生がどんな本を書かれているか興味はありませんか？

入口に設置してある展示ケースでは、ナイチンゲール著『Notes on Nursing』初版の複製本 3 冊のほか、本学教員の研究活動を紹介しています。

研究活動とは、主に図書館で所蔵している著書の紹介であり、数名ずつ、約 2 ヶ月展示しています。ぜひご覧ください。

このほかに、展示してほしい資料や展示ケースの利用方法について、ご意見・ご要望ありましたら係員もしくは館内掲示板前の意見箱、または下記までお寄せください。

雑誌製本のお知らせ

毎年 8 月に、図書館所蔵雑誌のなかから、主に前年度刊行された学術雑誌の製本作業を行います。その準備作業のため、対象雑誌は 6 月末から借りることはできなくなります。

7 月中は、館内でご利用いただけますが、8 月中は、研究室所蔵があればそちらをご利用いただくか、他大学図書館等に文献複写を依頼することになります（有料）。作業の終了は 9 月中旬を予定しています。製本は雑誌を長く保存するために必要な作業です。ご協力をお願いします。

図書館だより 第19号(2006年6月8日発行)

編集：新潟県立看護大学図書委員会

発行：新潟県立看護大学図書館

e-mail: tosoyo@niigata-cn.ac.jp

〒943-0147 上越市新南町240番地

TEL: 025(526)1169(直通)

URL: http://lib.niigata-cn.ac.jp/